

講演1

認知症の人の満足死とは

石黒秀喜 Ishiguro Hidenobu

長寿社会開発センター理事

講演2

満足死のための医師の役割

高瀬義昌 Takase Yoshimasa

高瀬クリニック院長

講演3

満足死のためのケア職の役割

中馬三和子 Chuman Miwako

あうん介護センター副所長

パネルディスカッション

認知症の人の

満足死をどう支えるか

宮永和夫 Miyanaga Kazuo

南魚沼市病院事業管理センター

柴田範子 Shibata Noriko

NPO法人楽理事長

石黒秀喜 Ishiguro Hidenobu

右掲

高瀬義昌 Takase Yoshimasa

右掲

中馬三和子 Chuman Miwako

右掲

公開講座

lecture open to the public

2018
Wed.
4.25

認知症の人の満足死をどう支えるか

できれば病院ではなく自宅で最期を迎えたい。認知症の人の満足死を実現するための要件とは——。本人、家族、ケア職、医師など、さまざまな立場から考えていきます。



定員

200名

参加費

1000円

時間

14時～16時30分
〔開場13時30分〕

会場

めぐろパーシモンホール
〔東京都目黒区〕（小ホール）

主催

認知症の人のターミナル
医療・ケア研究会
NPO法人認知症ラボ

P R O F I L E

登壇者

石黒秀喜 [いしぐろひでのぶ] 厚生労働省で介護保険指導室長、大臣官房参事官を歴任した後、2008年退職。現在、一般財団法人長寿社会開発センター理事。義母の認知症の進行、寝たきり、胃ろうなどに遭遇したことを通じて、『上手に老いるための自己点検ノート』（全国コミュニティライフサポートセンター）を出版。各地で“介護され上手”に関する市民講座の講師も務める。

高瀬義昌 [たかせよしまさ] 内科医。2004年、東京都大田区に在宅医療を中心とした「たかせクリニック」を開業。認知症サポート医、東京都地域ケア会議推進部会委員なども務める。著書に『自宅で安らかな最期を迎える方法』（WAVE出版）、『認知症、その薬をやめなさい』（廣済堂出版）、『認知症の家族を支える』（集英社）などがある。

中馬三和子 [ちゅうまんみわこ] 特別養護老人ホーム職員、都内ケアセンター、都内療養型病棟勤務を経て、2002年より川崎市多摩区で介護支援専門員として勤務。地域の特性、医療・介護・行政の協力強化を考えながら、現在、あうん介護センター副所長ならびに川崎市介護支援専門員連絡会会長として活躍。介護福祉士、社会福祉士、主任介護支援専門員。

宮永和夫 [みやながかずお] 精神科医。群馬大学保健管理センター助教授、群馬県精神保健福祉センター所長などをを経て、現在、南魚沼市病院事業管理者ならびにNPO法人若年認知症サポートセンター理事長。専門は老年精神医学。著書に『若年認知症の臨床』『ステップ式認知症処方』『ピック病とその仲間たち』（新興医学出版社）などがある。

柴田範子 [しばたのりこ] ホームヘルパーを12年間経験後、介護福祉士養成を担う教員に。2004年、NPO法人楽を設立。川崎駅前に認知症デイサービスひつじ雲（365日型・泊りあり）を開設。2008年、制度改正に合わせ、小規模多機能型居宅介護ひつじ雲に変更。同時に、サテライトくじら雲を区内に開設。

FAX●044-330-1744

Mail●terminalken@gmail.com

お申込書

お名前 [ふりがな]	
ご職業	
ご連絡先電話番号	
ご参加人数	名

Mailでお申し込みの場合、上記内容を明記のうえ、送信願います。
お申込みは先着順となります。定員(200名)を超え、やむをえずお断りする場合のみご連絡申し上げます。
参加証などは発行いたしません。当日、直接会場にお越しください。
参加費(1,000円)は、当日、受付にてお支払い願います。
ご記入いただいたお客様の個人情報は、当講演会の目的に限って使用させていただきます。

お問合せ

認知症の人のターミナル医療・ケア研究会

TEL090-6796-8989 [尾崎]

▶めぐるパーシモンホール [小ホール]
東京都目黒区八雲1-1-1
東急東横線・都立大学駅より徒歩7分
駐車場は駐車台数に限りがありますので、ご来館には公共交通機関をご利用ください。

